

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	名古屋平成看護医療専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科	夜・通信	9 単位	9 単位	
	理学療法学科	夜・通信	12 単位	12 単位	
医療専門課程	柔道整復学科	夜・通信	9 単位	9 単位	
	柔道整復学科	夜・通信	9 単位	6 単位	
	はり・きゅう学科	夜・通信	9 単位	9 単位	
	はり・きゅう学科	夜・通信	9 単位	6 単位	
文化・教養課程	プロフェッショナルトレーナー学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	トレーナー学科	夜・通信	240 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

事務室に刊行物を設置している
----------------

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋平成看護医療専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社エビススポーツ マッサージ社長	2019.4.1～ 2021.3.31	企画・調整
(備考) 2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋平成看護医療専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>教育理念に基づき、教育目標を定め各科目のシラバスを作成している。シラバスには授業概要・目的・到達目標・成績評価方法及び基準・履修にあたっての注意を記載している。</p> <p>看護学科以外はシラバスを学生へ授業内で紙面にて配布している。看護学科は学生便覧にシラバスを記載し、学生へ4月に配布している。</p> <p>成績評価は出席日数・授業の参加状況・レポート課題・小テスト等を基に単位認定試験にて実施し、「学生便覧」に公表し4月に配布している。また、事務室に2019年7月24日までに刊行物を設置する。</p>	
授業計画書の公表方法	事務室に刊行物を設置している
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>担任面談、保護者面談を定期的実施し、保護者には電話による連絡、相談も適宜行っている。</p> <p>試験期間を設けた定期試験(看護学科は試験期間を設けていない)や授業内試験、レポートによる評価などを総合的に評価しており、学生と教員へ周知している。</p> <p>教員へ講師会および学生便覧にて規程を示している。</p> <p>単位認定はシラバスにおいても示している。</p> <p>60点以上で単位認定          優:80~100 良:70~79 可:60~69 不可:60点以下          不可は、再履修とする。</p> <p>成績不振の学生は、学科会議・単位認定会議で指導方法検討</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則及び教務会規程で定めている。</p> <p>成績は科目ごとに評価(4段階)するほか、各期と学年ごとにGPAとして評価し、成績表に付記する。このGPAは各種成績優秀学生の表彰など様々な判断に用いる。GPAの計算方法は各科目の成績評価のそれぞれにグレードポイント(優(A)評価11ポイント、良(B)評価7ポイント、可(C)評価4ポイント、不可(F)評価0ポイント)をつけ、それに各単位数をかけて足した合計点を総単位数(履修登録単位の総数)を割ってスコア化するものである。</p> <p>2019年度入学生は成績評定は優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)としている。</p> <p>2018年度以前の入学生はA:80～100点 B:70～79点 C:60～69点 不可:60点以下としている。</p> <p>成績評価は「学生便覧」にて公表している。</p> <p>試験の点数通知は看護学科は採点表を学生に配布、理学療法学科および柔道整復学科、はり・きゅう学科は成績を送付および合否を掲示、プロフェッショナルトレーナー学科やトレーナー学科はテスト返却に点数を知らせる。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	事務室に刊行物を設置している
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定は全ての単位を取得することにより認定している。</p> <p>卒業年度の総合領域の単位取得には卒業総合試験として実施し、評価は卒業総合試験成績表で各個人へ提示している。</p> <p>卒業総合試験の実施要項は「学生便覧」にて公表している。</p> <p>判定会議にて決議し、その結果を学生や保護者に面談提示している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	事務室に刊行物を設置している

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	名古屋平成看護医療専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html">http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html">http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html</a>
財産目録	<a href="http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html">http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html</a>
事業報告書	<a href="http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html">http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html">http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療専門分野		医療専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	97単位	74単位	単位時間	23単位	単位時間	単位時間
			97単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		64	人	10人	47人	57人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 知識・技術・思いやりを持つ看護師を目標に 1年次は基礎力 2年次は応用力 3年次は看護実践網力を育むよう段階的に構築している
成績評価の基準・方法
（概要） 出席日数・授業の参加状況・レポート課題・小テスト等を基に単位認定試験を実施 60点以上で単位認定 優：80～100 良：70～79 可：60～69 不可：60点以下 不可は、再履修とする 成績不振の学生は、学科会議・単位認定会議で指導方法検討

卒業・進級の認定基準
(概要) 半期ごとに単位認定会議を教職員で開催 1年次：39単位 2年次：35単位 3年次：23単位を取得
学修支援等
(概要) 1年次で月2回、2年次で月1回の学習支援を行っている  国家試験対策は 1年次2コマ、2年次5コマ、3年次38コマを基に模擬試験棟を実施 3年生については12月から国家試験対策として補修を実施している  また、クラス担任を中心として面談を随時実施し、相談・指導に当たる

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	人 (%)	35人 (97.2%)	1人 (2.8%)
(主な就職、業界等) 医療機関			
(就職指導内容) 2年次キャリアサポートとして外部講師により履歴書の書き方・面接の練習等を実施 看護協会から講師を招き、就職情報を紹介する 各採用試験に関する情報、求人情報は掲示板等で学生に周知			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2018年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任を中心に面談を行い、方向性を検討 費用面での問題である場合は事務局と連携し、奨学金等の対応を行う カウンセラーを配置し、相談できる環境を提供する		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療専門分野		医療専門課程	理学療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	141 単位時間	80 単位	35 単位	26 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			141 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140 人		36 人	0 人	7 人	36 人	43 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業科目は第1年次から第4年次に配分して開講する。各学年での授業科目の実施の時期、曜日、時限及び担当教員等は、半期ごとに各期首に告示する。授業科目毎に主担当教員を置く。前期、後期の2学期制とする。「理学療法学科」の各学期は原則として15週と定める。ただし、4年次の授業講義については臨床実習の都合により変則的に実施される。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目における成績評価は、科目の主担当教員が、筆記試験や実技・口頭試験、またはこれにかわるレポート及び報告書、臨床実習における学修状況、授業の学修の成果（以下「成果物」）等により行う。優（A：80点以上）、良（B：70点以上79点以下）、可（C：60点以上69点以下）、不可（F：59点以下）の4段階とする。既修得単位の認定を受けた科目の成績は、認（既修得単位認定）と表示する。 上記の他、各期と学年ごとにGPA（Grade Point Average）として評価し、成績表に付記する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 2年次進級は、1年次に開講した専門基礎及び専門科目のうち、原則未修単位数が8単位以内であること。3年時進級は、1年次、2年次の科目を全て修得していること。4年次進級は、1年次から3年次の科目を全て修得していること。卒業条件は、1年次から4年次の科目を全て修得し、学年末の卒業試験で基準を満たすこと。
学修支援等
（概要）各クラスには担任が付き、学生一人ひとりの学習上、生活上、進路上のカウンセリングを行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	16人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 病院，診療所，介護保険施設（介護老人保健施設）等
(就職指導内容) 就職指導室を常設。就職面談時のマナー，履歴書の書き方指導など。
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士、介護予防運動指導員
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52人	8人	15.4%
(中途退学の主な理由) 学業不振、学習意欲の喪失など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 結論に至る前の段階での保護者連絡，面談を頻繁に行っている。 費用面での問題である場合は事務局と連携し、奨学金等の対応を行う カウンセラーを配置し、相談できる環境を提供する		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	120 単位	74 単位	18 単位	4 単位	0 時間	24 単位
			120 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
54 人	23 人	0 人	7 人	7 人	14 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）講義・演習・実習・実技により展開されている。授業計画としては、教育課程表に基づき、シラバスを作成・教授・履修をし、各教科、定期試験により判定を行っており、それらを、授業進行表にて管理している。
成績評価の基準・方法
（概要）各項目の定期試験や小テストの結果、授業参加態度、出席状況、課題の評価や提出状況を総合し、優：A、良：B、可：C、不可：F（単位不認定）の4段階評価を行っている。科目により、評価指標を、認定：Nとしている。基準としては、各科目で80%以上の出席率があり、評価が優：A、良：B、可：Cの場合、または、認定：Nの場合は学則記載の教育課程表と各科目の学習指導計画書で示す単位を取得するようになる。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業に関しては、3年次修了時に教育課程表で示す必要単位数以上を取得していることを基準要件とし、進級は、各年次で教育課程表で示す必要単位数以上を取得していることを基準要件としている。また、卒業・進級両共、学費を完納していることを条件としている。
学修支援等
（概要）各科目の補修授業・補助授業などを、定期試験等を目安に設置して、展開している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100%)	0 人 ( 0%)	12 人 ( 92.3%)	1 人 ( 7.7%)
(主な就職、業界等) 整形外科、接骨院（整骨院）、介護施設			
(就職指導内容) 年3回の就職ガイダンスと、学内にて企業説明会を実施。			

(主な学修成果(資格・検定等)) 柔道整復師
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
2018年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	2人	6.5%
(中途退学の主な理由) 学費捻出困難、欠席過多、学習意欲低下。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者様への電話連絡、保護者様を交えた三者面談などを実施。 費用面での問題である場合は事務局と連携し、奨学金等の対応を行う カウンセラーを配置し、相談できる環境を提供する		

### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	120単位	74単位	18単位	4単位	0時間	24単位
			120単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
54人		23人	0人	7人	6人	13人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 講義・演習・実習・実技により展開されている。授業計画としては、教育課程表に基づき、シラバスを作成・教授・履修をし、各教科、定期試験により判定を行っており、それらを、授業進行表にて管理している。
成績評価の基準・方法
(概要) 各項目の定期試験や小テストの結果、授業参加態度、出席状況、課題の評価や提出状況を総合し、優:A、良:B、可:C、不可:F(単位不認定)の4段階評価を行っている。科目により、評価指標を、認定:Nとしている。基準としては、各科目で80%以上の出席率があり、評価が優:A、良:B、可:Cの場合、または、認定:Nの場合は学則記載の教育課程表と各科目の学習指導計画書で示す単位を取得するようになる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業に関しては、3年次修了時に教育課程表で示す必要単位数以上を取得していることを基準要件とし、進級は、各年次で教育課程表で示す必要単位数以上を取得していることを基準要件としている。また、卒業・進級両共、学費を完納していることを条件としている。

学修支援等 (概要) 各科目の補修授業・補助授業などを、定期試験等を目安に設置して、展開している。
--

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 整形外科、接骨院(整骨院)、介護施設			
(就職指導内容) 年3回の就職ガイダンスと、学内にて企業説明会を実施。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
2018年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	2人	14.3%
(中途退学の主な理由) 学費捻出困難、欠席過多、学習意欲低下。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者様への電話連絡、保護者様を交えた三者面談などを実施。 費用面での問題である場合は事務局と連携し、奨学金等の対応を行う カウンセラーを配置し、相談できる環境を提供する		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	はり・きゅう学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
3年		118単位	92単位	7単位	19単位	時間	時間
			118単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
180人	42人	0人	8人	8人	16人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） はり師・きゅう師になろうとする者に対して必要な知識および技術を教授し、豊かな人間性を養い、もって人々の保健医療福祉に貢献できるはり師・きゅう師を育てることを目標に座学、実技、臨床実習を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 単位認定試験、小テスト、課題、授業参加態度、出席状況、課題の評価や提出状況を総合し、優：A、良：B、可：C、不可：F（単位不認定）の4段階評価を行っている。科目により、評価指標を、認定：Nとしている。基準としては、各科目で80%以上の出席率があり、評価が優：A、良：B、可：Cの場合、または、認定：Nの場合は学則記載の教育課程表と各科目の学習指導計画書で示す単位を取得するようになる。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則、学生便覧に則り判定をする。 進級：各学期における単位不認定科目が4科目以下であること。 単位不認定科目に実習科目が含まれないこと。 学費及び諸経費を期限までに完納していること。 卒業：卒業必要単位数以上を取得していること。 学費及び諸経費を期限までに完納していること。
学修支援等
就職指導体制、学生相談室、クラス担任制、経済的支援、奨学金制度、学費分納制度、健康支援、フォローアップ体制、各種研修制度

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26人 (100%)	0人 ( 0.0%)	24人 ( 92.3%)	2人 ( 7.7%)
（主な就職、業界等） 病院（整形外科）、施術所勤務、教育施設			
（就職指導内容） 学内企業説明会の実施、就職ガイダンスの実施、キャリアカウンセラーによる支援、担任面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師、きゅう師の取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2018年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64人	4人	6.3%
(中途退学の主な理由) 経済的な理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談、保護者との連携 費用面での問題である場合は事務局と連携し、奨学金等の対応を行う。 カウンセラーを配置し、相談できる環境を提供する。		

### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	はり・きゅう学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	118単位	92単位	7単位	19単位	時間	時間
			118単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		7人	0人	8人	8人	16人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) はり師・きゅう師になろうとする者に対して必要な知識および技術を教授し、豊かな人間性を養い、もって人々の保健医療福祉に貢献できるはり師・きゅう師を育てることを目標に座学、実技、臨床実習を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 単位認定試験、小テスト、課題、授業参加態度、出席状況、課題の評価や提出状況を総合し、優：A、良：B、可：C、不可：F (単位不認定) の4段階評価を行っている。科目により、評価指標を、認定：Nとしている。基準としては、各科目で80%以上の出席率があり、評価が優：A、良：B、可：Cの場合、または、認定：Nの場合は学則記載の教育課程表と各科目の学習指導計画書で示す単位を取得するようになる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則、学生便覧に則り判定をする。 進級：各学期における単位不認定科目が4科目以下であること。 単位不認定科目に実習科目が含まれないこと。 学費及び諸経費を期限までに完納していること。 卒業：卒業必要単位数以上を取得していること。 学費及び諸経費を期限までに完納していること。
学修支援等
就職指導体制、学生相談室、クラス担任制、経済的支援、奨学金制度、学費分納制度、健康支援、フォローアップ体制、各種研修制度

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 ( 0.0%)	9人 ( 81.8%)	2人 ( 18.2%)
（主な就職、業界等） 施術所開業、施術所勤務、出張開業、一般企業			
（就職指導内容） 学内企業説明会の実施、就職ガイダンスの実施、キャリアカウンセラーによる支援、担任面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師、きゅう師の取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	3人	14.3%
（中途退学の主な理由） 経済的な理由、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任面談、保護者との連携 費用面での問題である場合は事務局と連携し、奨学金等の対応を行う。 カウンセラーを配置し、相談できる環境を提供する。		

### ①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
教育・福祉関係	文化・教養専門課程	プロフェッショナルトレーナー学科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3030 単位時間	1290 時間	810 時間	720 時間	0 時間	210 時間
			3030 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	3人	0人	3人	8人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）専門的な知識や技術習得のために、座学・演習・実技を段階的にバランスよく配置している。 また、習得度に応じた適切な実習を設定し、知識と経験を結び付けるとともに課題発見能力やコミュニケーション能力などの向上を目指す。
成績評価の基準・方法
（概要）出欠席、積極性、提出物、試験結果等から総合的に評価。
卒業・進級の認定基準
（概要）各学科生とも次の全条件を満たしていること。 1 進級については、各学年における単位不認定科目が6単位以下であること。 2 卒業については、卒業年次終了時に必要単位数以上を取得していること。 3 進級、卒業いずれの場合も、学費及び諸経費を期限までに完納していること。
学修支援等
（概要）習熟度に応じた段階的な確認テストの実施、ゼミナール形式での資格直前対策、保護者への出席状況や生活状況等の連絡、担任や就職担当者等による面談や個別サポート

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	18人 (90%)	2人 (10%)
（主な就職、業界等） リハビリ助手、パーソナルトレーナー、リハビリトレーナー、スポーツインストラクター、体操教室・スポーツスクール運営			
（就職指導内容） 就職対策講座開講、業界研究サポート、履歴書添削、面接指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、(特非)日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者、(公財)健康・体力づくり事業財団認定健康運動実践指導者、日本赤十字社救急法救急員			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	4人	14.8%
（中途退学の主な理由） 家庭事情やモチベーション低下による欠席過多、勉強不足による単位不認定科目過多		

(中退防止・中退者支援のための取組) 家庭との連携による生活管理や学業の進捗度共有、担任による本人との面談や学習支援							
分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・福祉関係		文化・教養専門	トレーナー学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間	840 時間	420 時間	270 時間	0 時間	270 時間
			1800 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		0 人	0 人	3 人	2 人	5 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 専門的な知識や技術習得のために、座学・演習・実技を段階的にバランスよく配置している。 また、習得度に応じた適切な実習を設定し、知識と経験を結び付けるとともに課題発見能力やコミュニケーション能力などの向上を目指す。
成績評価の基準・方法
(概要) 出欠席、積極性、提出物、試験結果等から総合的に評価。
卒業・進級の認定基準
(概要) 各学科生とも次の全条件を満たしていること。 1 進級については、各学年における単位不認定科目が6単位以下であること。 2 卒業については、卒業年次終了時に必要単位数以上を取得していること。 3 進級、卒業いずれの場合も、学費及び諸経費を期限までに完納していること。
学修支援等
(概要) 習熟度に応じた段階的な確認テストの実施、ゼミナール形式での資格直前対策、保護者への出席状況や生活状況等の連絡、担任や就職担当者等による面談や個別サポート

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9 人 (100%)	5 人 (55.6%)	4 人 (44.4%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) リハビリ助手、パーソナルトレーナー、リハビリトレーナー、スポーツインストラクター、体操教室・スポーツスクール運営			

(就職指導内容) 就職対策講座開講、業界研究サポート、履歴書添削、面接指導
(主な学修成果(資格・検定等)) (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、(特非)日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者、(公財)健康・体力づくり事業財団認定健康運動実践指導者、日本赤十字社救急法救急員
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 家庭との連携による生活管理や学業の進捗度共有、担任による本人との面談や学習支援		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
看護学科	250,000円	2,760,000円	1,500,000円	
理学療法学科	250,000円	3,680,000円	1,810,000円	
柔道整復学科	250,000円	2,610,000円	1,290,000円	
はり・きゅう学科	250,000円	2,610,000円	1,290,000円	
プロフェッショナル トレーナー学科	150,000円	1,860,000円	1,370,000円	
トレーナー学科	150,000円	1,240,000円	930,000円	
修学支援(任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園独自の奨学金：入学時特別奨学金、ダブル在籍支援奨学金、再進学支援奨学金、特待生支援奨学金、緊急支援奨学金、ひとり親就学支援奨学金</li> <li>・日本学生支援機構奨学金</li> <li>・金融機関の教育ローン：日本政策金融公庫の国の教育ローン、滋賀銀行の提携教育ローン、三井住友銀行の教育ローン、オリコの学費サポートプラン、セディナの学費ローン</li> </ul>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.nheisei.ac.jp/publication/">https://www.nheisei.ac.jp/publication/</a>		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 各学科の業界に精通者ならびに教育関係者を評価委員に交え、自己評価報告書に対して、自己評価の客観性・透明性を高めるために様々な観点から評価を行っていただく。		
学校関係者評価の委員		
委員種別	所属	任期
企業等委員	有限会社ガイアそうこ	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日
企業等委員	小林接骨院	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日
企業等委員	医療法人珪山会 鵜飼病院	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日
企業等委員	医療法人 としわ会	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日
企業等委員	中日新聞社健康保険組合中日病院	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日
企業等委員	セントラルフィットネスクラブ藤が丘	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日
教育関係者	愛知県立 城北つばさ高等学校	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.nheisei.ac.jp/publication/">https://www.nheisei.ac.jp/publication/</a>		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 事務所内に刊行物「学生便覧」「シラバス」「実務教員科目一覧」
---